

令和7年度 入学式式辞

学 長 森 下 宏 美

新入生のみなさん、北海学園大学へのご入学、おめでとうございます。教職員一同、心より歓迎いたします。また、今日まで新入生のみなさんを暖かく見守り、お支えくださったご家族、関係者のみなさまにも、心よりのお祝いを申し上げます。

本日、学校法人北海学園安酸敏眞理事長をはじめ、ご来賓のご列席のもと、令和7年度北海学園大学入学式を挙行できますことを、たいへん嬉しく思います。

北海学園大学は、今年、前身の北海短期大学の設立から数えて、創基75周年を迎えます。また今年、北海学園の起源である北海英語学校の設立から数えて、140周年に当たります。北海道の若者に、将来の社会の担い手となるにふさわしい高度な教育を授けたい、この情熱によって北海英語学校は生まれ、歩みを重ねてまいりました。

本学は、このような先人の意志を受け継ぎ、「開拓者精神」そして「自立と自律」とを建学の精神として掲げ、長年にわたって北海道における高等教育を担ってきました。卒業生は約10万人に及び、活躍の場を国内外の各界に広げています。文字どおり北海道に根ざした大学として、地域社会の担い手を数多く輩出するとともに、多分野における豊かな才能を育んできました。その歴史と実績に、私たちは大きな誇りを持っています。本日、新たな可能性に充ちたみなさんを、本学にお迎えすることができましたことは、私たち教職員にとって何よりの喜びとするところです。みなさんには、これからの4年間を、自らのよき人生を築くための有意義な時間としてほしいと願っています。そして、それぞれの人生が、よりよい社会の実現と重なるものであってほしい、そのように強く願っています。

いま私たちが暮らす社会は、大きな転機を迎えています。少子・高齢化、人口減少、地球温暖化の進行によって、社会の存立基盤そのものが揺らいでいます。また、ICTやAIの発達、グローバル化の進展は、私たちの暮らしに大きな利便をもたらす一方で、例えば、生成AIの発達による情報の性質の変化など、新たな問題を生んでいます。このような現実に対処し、よりよい社会を築いていくためには、新しい知恵の創造と、その知恵を活かす人々の共同が必要です。

人口減少が進み、さまざまな社会課題が浮き彫りになる中で、社会が大学に寄せる期待はますます大きくなっています。それは、大学には、未来の社会の担い手となる多くの若い人たちが、そしてたくさんの研究者が集っているからにほかなりません。

いまここに約2000名の同期のみなさんが集っています。いまはまだ互いに見知らぬ者同士ですが、生涯の友となる人との出会いが必ずあります。私たちは人生のいろいろな段階でさまざまな友と出会いますが、大学時代においてこそ出会いたいのは「問いを共有する友」です。

自分と同じ「問い」に取り組む仲間、あるいは、それぞれの「問い」に向き合う努力に共感し合える仲間のことです。一人の努力では成し遂げられないことも、仲間と一緒にならば成し遂げることができます。そして、「問いを共有する友」は、年齢を問わず、そして国籍を問わず求めることができます。是非、そのような友と出会ってください。

先ほど、大学にはたくさんの研究者が集っていると申しました。大学の教師はみな研究者です。それぞれの「問い」に向き合い、答えを求めて日々研究しています。「研究」と聞きますと、書斎や実験室にこもった、どこか閉鎖的な営みのように感ずるかもしれませんが、決してそうではありません。研究は、社会に開かれた能動的な活動です。研究者は、自らの「問い」に対して、他者が納得する理由や根拠にもとづく答えを導こうと努力していますが、そのようにして導かれた答えは、もはや研究者本人だけのものではなく、人々に共有される知恵となり、新しい可能性を切り拓く社会の力となります。

みなさんは、さまざまな経験を通じていろいろな「問い」を抱くでしょう。また、今まで知らなかった「問い」の存在に気づくでしょう。それらのいくつかは、自ら解かずにはいられない「問い」となるはずです。その時に必要なのは、答えを導き出すための研究の方法です。それぞれの学問分野に、それぞれの方法があります。また、同じ学問分野の中にもさまざまな方法があります。大学での学びを通じて、みなさんには、研究の方法を身につけていただきたいと思っています。研究の方法を身につけていることは、大学を卒業した後のみなさんの仕事や社会活動において大いに役立つはずです。

本学は、「常に真理を探究する構えと専門の学知に支えられた高い道義性と知性を兼ね備え、自己のキャリアの持続的発展と他者との自由な連帯を通し、未来を切り拓くパイオニアの育成に努める」ことを教育の目標としています。このような目標のもとに行われる本学での教育を通じて、私たち自身もまた、みなさんと「問いを共有する友」となりたいと思っています。少々固いことばかり申し上げましたが、大学には楽しいこともたくさんあります。それらを大いに満喫し、本学での4年間を実り多い時間として過ごしていただきたいと思います。そして、私たち教職員一同、そのための努力を惜しまぬこととお誓い申し上げ、学長としての式辞といたします。